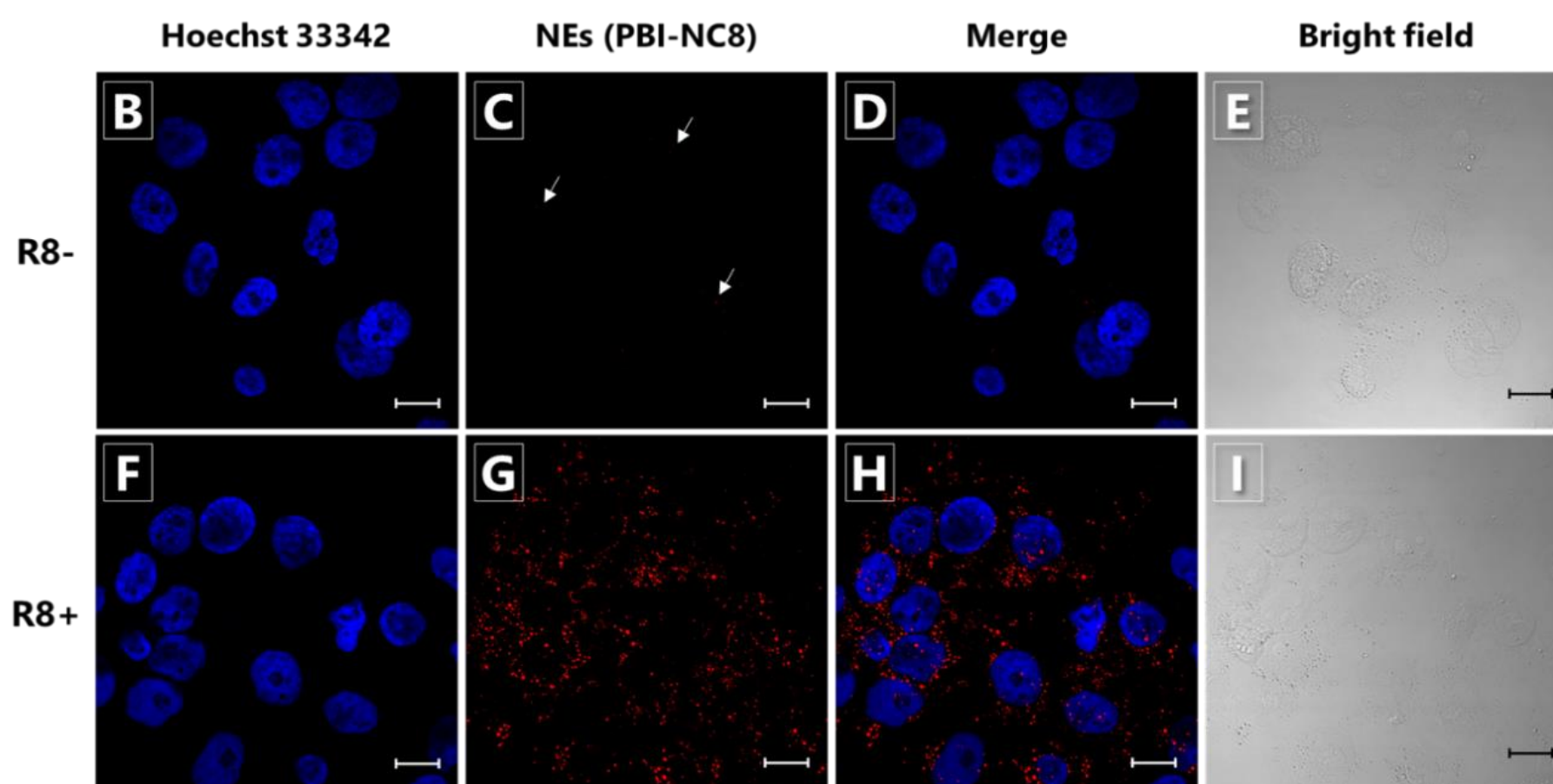


Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) への論文受理

2/14 (金)、本学理工学部化学生命理工学科の仁子陽助教と本センターの中山沢助教が共同責任著者にて投稿した論文が、国際誌Bulletin of the Chemical Society of Japan (BCSJ) (IF 4.431)に受理されました。本研究は、米国食品医薬品局(FDA)認可された生体に対して毒性の低い有機物を用いて作成したナノエマルジョンの表面をポリアルギニン修飾することにより、ナノエマルジョンを細胞内へ輸送できることを示したものです。本技術は、ドラッグデリバリーシステム(DDS)を始め、物質を細胞内に輸送することへの応用が期待されます。

Airi Saito, Shinkuro Yamamoto, Rika Ochi, Keiji Inoue, Shingo Hadano, Shigeru Watanabe, Taku Nakayama,* Yosuke Niko*, “An Azide t ethered Cremophor ELP S urfactant Allow ing Facile Post Surface Functionalization of Nano emulsions”, Bull. Chem. Soc. Japan, in press. (IF 4.431)

本研究は、文部科学省の科学技術研究費に加えて、高知大学 学長裁量経費、高知大学附属病院 病院長裁量経費の資金提供によって遂行されました。光線医療センターは、医工連携による新規技術を引き続き創出して参ります。



図：アルギニン修飾 (R8)によって細胞内へのナノエマルジョンの取り込みが増加する様子

光線医療センター ニュースレター

2020年 2月 29日 発行

発行責任者：花崎 和弘

(高知大学医学部 光線医療センター センター長)

編集責任者：井上 啓史

(高知大学医学部 光線医療センター 副センター長)

<https://www.kochi->

[ms.ac.jp/~hsptl/guidance/onespost/photodynamic.html](https://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/guidance/onespost/photodynamic.html)